

## 学年間のつながりを生み出す学習環境デザイン

大阪産業大学全学教育機構  
山田嘉徳

2017/08/24(木)  
SPODフォーラム2017  
プログラム番号 2401F(ワーク中心) 10:00-12:00  
於 徳島大学三島キャンパス

## 自己紹介

- 山田嘉徳
- 専門:教育心理学, 大学教育
- 研究:先輩後輩関係を活用したゼミにおける協同的な学びのプロセス
- 最近では・・・アクティブラーニングの効果検証, ラーニングコモンズでの学び, 学士課程教育の一環としての4年次教育での学び

## 本日の流れ

- 講義part
  - 理論紹介
  - 実践紹介
- ジグソーpart
  - 実践の共有・検討
- 個人ワークpart
  - 振り返り

## 講義partの前に・・・

- 大学(教育)での異学年交流の経験に関して・・・

- 研究室, ゼミ(演習), 講義, アクティブラーニング, 初年次教育, 留学生支援, 高大接続, 大学間交流, 地域連携, 学生支援, 教育・学習支援, 部活・サークル等の正課外活動における各種プログラム etc

## 講義part

- 学年間のつながりを生み出す理論と実践

## プログラムの背景

- 学年間のつながりを生み出す学習環境デザイン

- 大学は学生の学びと成長にいかに関与するか  
-「(学士課程)教育における質保証」
- 学習環境デザインのあり方の多様性  
-「何を求めて, 何に依拠してデザインするのか」

## 理論的な背景

- 社会的構成主義 social constructivism

- 旧来の教授学習論

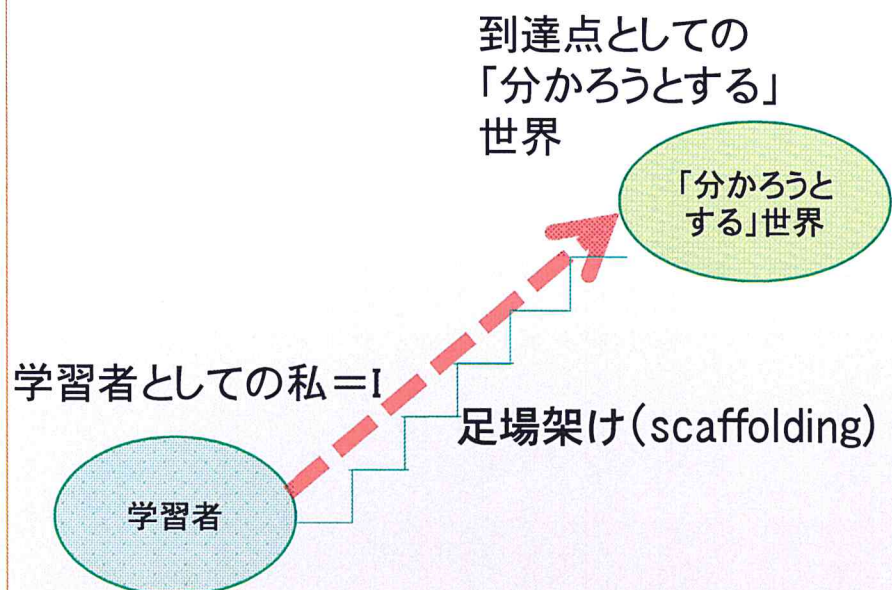
### 旧来の「教授」観

- 1人の教師が
- 教材・教具・ICT等を駆使して
- 1人の児童・生徒(学生)の変化を期して
- 不断の努力をする

### 旧来の「学習」観

- 1人の児童・生徒(学生)が
- 教師の使う教材・教具・ICT等を通して
- 獲得すべき知識・スキルを
- 獲得すべく不断の努力をする

## ギャップの構造



## ギャップの埋め方

- プログラム学習的発想(教師/児童・生徒(学生)双方の個人の努力援助)  
スモールステップ  
即時フィードバック
- **社会的構成主義的アプローチ**(協同による知の構成への援助)  
学習者の「学び」の意思・意図の重視  
ピア(協同する仲間)の存在の重視

## 構成主義的認識論 一知の在りかた一

- 科学的知識は科学者の内部で構成されるものであって、物理的・客観的世界からそれを発見するものではない。

◎discovery → construct

## 「教育」という営み認識の変化

- **旧来の教育観**  
足場かけの担い手＝教師  
児童・生徒に当該の事柄についてのアイデアを持たせ、教授事実の集積によってその確からしさを高めさせていく。
- **社会的構成主義的教育観**  
足場架けの担い手＝児童・生徒(学生)  
児童・生徒に当該の事柄についてのアイデアを持たせ、**ピア間の階層構造**を活用して「知」を構成させていく。

## ピア間の階層構造

ピアの階層	初学者	学習者	ピア・シニア	ピア・マスター
特徴	当該の活動・スキル・知識の獲得のために予備的なサポートが必要な者	当該の活動・スキル・知識の学習ができる能力のある者	当該の活動・スキル・知識を持ちかなりの能力のある者	当該の活動・スキル・知識を完全に習得し十分な能力のある者

ブリチャード・ウーラード, 2017 (p.95): 田中・岩崎, 2012を参考に作成

## 学習者と教授者 + ピア学習者

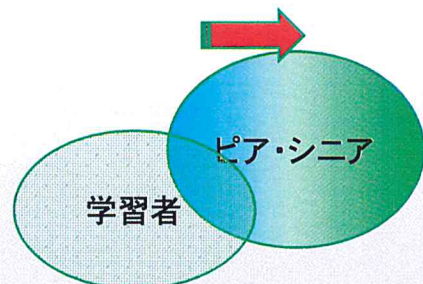
学習者にそっと寄り添い学習への動機づけを高める存在

「分かろうとする」世界



## 学習者と教授者 + ピア・シニア

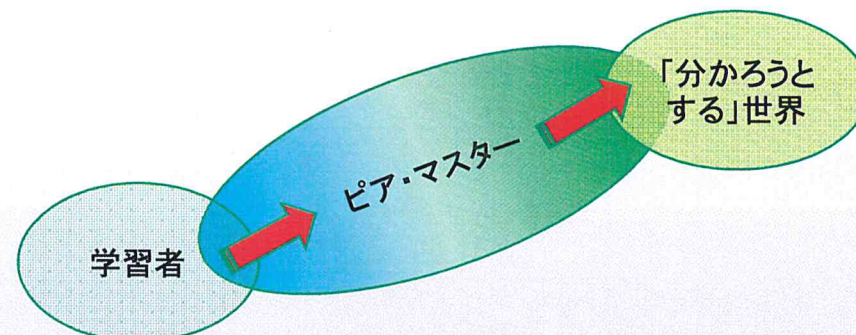
「分かろうとする」世界



学習者にそっと寄り添い、少し前をいく学びをみせることによる学習者の学びを促進する存在(ピア・シニア)

## 学習者と教授者 + ピア・マスター

「分かろうとする」世界



教授者の意向を反映した直接介入的な形での学習への教育補助(ピア・マスター)

## 実践例

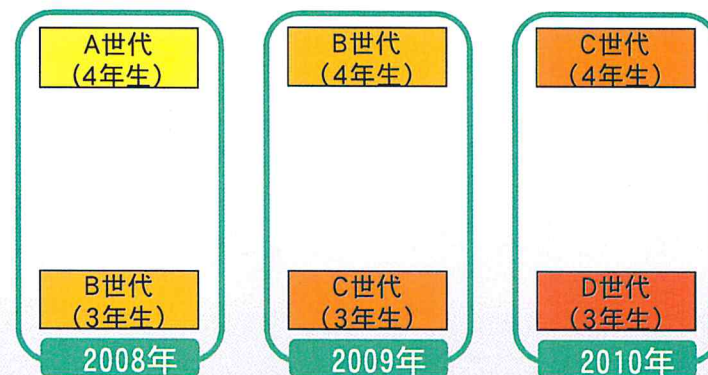
ゼミ生同士の協同がみられるゼミ (Tゼミ)

⇒先輩と後輩が「ペア」となり、ペアで協力して卒論に取り組む

⇒1991年から20年以上にかけて、のべ300をこえる卒業生

	合同ゼミ(3, 4年次生)	卒論ゼミ(4年次生)
4月	ゼミ発表 (3年次生中心)	卒論テーマ決定
5月		
6月		
7月	ゼミ合宿 (4年次生による卒論テーマ発表, ペア決定)	
9月	ゼミ発表 (ペアによる卒論合同中間発表)	卒論作成
10月		
11月		
12月	ゼミ合宿(ペアによる卒論合同中間発表)	
1月	ゼミ総括	卒論提出

## フィールド



### 「ブラザーアンドシスター制度」

先輩の卒論作成活動に、後輩が卒論協力をを行う形で参与することで「協同しながら学ぶ姿勢」が形成されることをめざす

## 異学年交流による学びのプロセス

### ● I 学びの構成過程

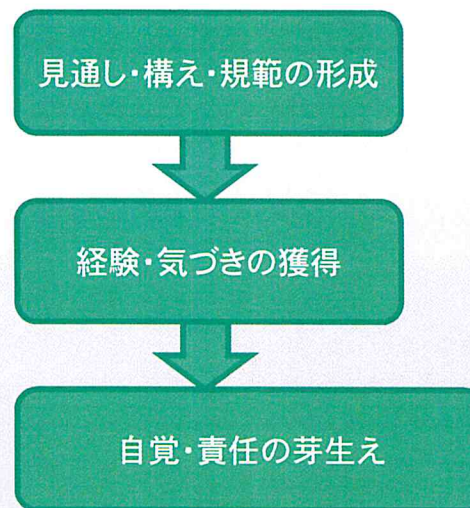
- a. 後輩としての協同的な学びの形成と志向
- b1. 先輩としての協同的な学びの形成と志向
- b2. 先輩としての協同的な学びの技法

### ● II 矛盾

- 協同的な学びにおける矛盾

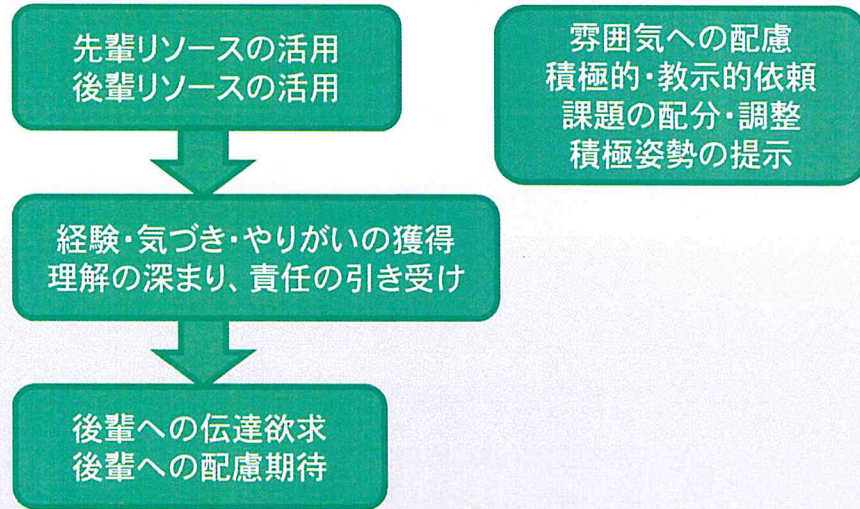
## I 学びの構成過程

- a. 後輩としての協同的な学びの形成・志向



## I 学びの構成過程

- b1.先輩としての協同的な学びの形成・志向
- b2.先輩としての協同的な学びの技法



## II 矛盾

- 協同的な学びにおける矛盾

わからない

できない

## 異学年交流の有効性と配慮すべき点

### ● 有効性

- 協同的な学びの**雰囲気の実感**
- 協同的な学びの**価値の継承**

### ● 配慮すべき点

- 先輩側の主導性
- ペア決定の方法
- カリキュラム上の制約

- ✓ 必然的に生じうる「矛盾」
- ✓ 矛盾が学びのリソースとして扱われる可能性

学年間のつながりを生み出す  
学習環境デザインを考える

## ジグソーpart

- 異学年交流を導入した取組内容について  
「学年間のつながりを生み出す」という視点から  
理解・共有する

## 個人ワークpart

- 学年間のつながりを生み出す学習環境デザイン  
について振り返る
  - ✓ 理論の理解
  - ✓ 実践知の共有
  - ✓ 実践を考える

## 個人ワークpart

## 参考文献

- 田中俊也・岩崎千晶 2012 学びをサポートする学生・院生の教育力の活用 関西大学高等教育研究 (3), 1-11.
- 田中俊也・山田嘉徳 2015 大学で学ぶということーゼミを通した学びのリエゾンー ナカニシヤ出版
- プリチャード, A.・ウーラード, J. 2017 アクティブラーニングのための心理学ー教育実践を支える構成主義と社会的学習理論 北大路書房
- 山田嘉徳 2011 先輩後輩関係を指導単位とするゼミ制度の有効性に関する一考察ー B&S制度における協同的な学びに着目してー 京都大学高等教育研究 17, 1-14.